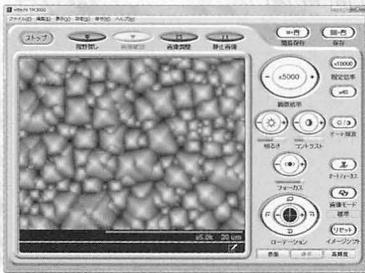


日立ハイテック
HITACHI

全世界で1000台以上の出荷実績を持つ
TM-1000の後継機として待望の次世代機登場

Miniscope®

日立卓上顕微鏡 TM3000



TM3000操作画面 (モニターに表示されている画像の試料は太陽電池です)

特長
卓上サイズでコンパクト設計
オート機能でシンプル操作
高倍率で焦点深度の深い*形態観察

*一般的な光学顕微鏡比



※マニュアルステージ付の外観です

形態観察からスクリーニング分析まで!

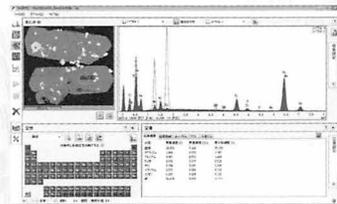
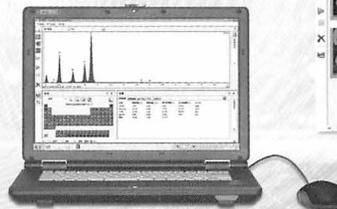
SwiftED3000

TM3000専用エネルギー分散型X線分析装置

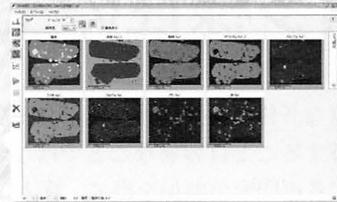
特長
ボロンからの軽元素分析
点分析、線分析、マッピングなど多機能分析
液体窒素不要で、電源投入後数分で使用可能



※TM3000との組み合わせ例 ※検出器内蔵型



点分析/面分析画面



マッピング画面

最先端を、最前線へ。

株式会社日立ハイテクノロジーズ

本社 〒105-8717 東京都港区西新橋一丁目24番14号 電話 ダイヤルイン(03)3504-6111
インターネットでも製品紹介しております。以下のURLへアクセスしてください。

URL <http://www.hitachi-hitec.com/em/>

北海道(札幌) (011)707-3200 東北(仙台) (022)264-2218 筑波(土浦) (029)825-4811 中部(名古屋) (052)219-1670 関西(大阪) (06)4807-2552
四国(高松) (087)814-9911 中国(広島) (082)221-4514 九州(福岡) (092)778-3015 沖縄 (098)863-8295

新日本海藻誌

—日本産海藻類総覧—

吉田 忠生 著 B5判・総頁1248頁・定価48300円(本体46000円)

岡村金太郎著「日本海藻誌」以来、実に60余年ぶりに刊行された海藻学の決定版。斯界の権威が日本の海藻を網羅して書き下ろした歴史的大著。綱、目、科、属、種などの分類階級ごとに、形質の特徴、および他との比較などを詳細に記述。また「綱から目へ、目から科へ・・・」わかりやすい検索表が付く。各種ごとに極めて詳細、細かな文献リストが付される。さらに種ごとにタイプ産地、タイプ標本、分布地域名が示される。学名、和名の由来、生育地の特徴など、関連する話題も豊富。

有用海藻誌

海藻の資源開発と利用に向けて

大野 正夫 編著 B5判・総頁596頁・定価21000円(本体20000円)

本書は「生物学編」、「利用編」、「機能性成分編」の3編から構成されどの項目からも必要なところから読むことができる。生物学編は、利用分野ごとに分けて、種名の査定に必要な形態、生活史、分布生態を記述。これらの水産、食用などへの利用や産業的背景、利用の歴史についても詳述する。利用編は、海藻産業の歴史的背景、加工技術から化学構造、品質などにふれ、将来への展望を示す。機能性成分編では、あまり知られていない海藻の成分とその利用範囲を幅広く記述。

日本の赤潮生物 写真と解説

福代康夫・高野秀昭・千原光雄・松岡数充 共編 B5判・430頁・定価13650円(本体13000円)

本書はこれまでに発生した赤潮の原因種と、これに混在した種を中心として収録するほか、赤潮を形成したことがなくても、赤潮形成種を同定する際に比較すべき種や有毒種を含む。主として日本近海および日本の淡水域に出現する種類であるが、東南アジア海域で出現する重要な赤潮原因種も含む。記述は赤潮生物の大きさや外部形態の特徴を中心に行うほか、内部形態やシスト形成の有無、生活史、生理・生態などを述べる。

藻類の生活史集成 全3巻

堀 輝三 編 B5判

本書全3巻は、藻類学の分野の中で個別に扱われることの多かった各藻類の生活史を、分かりやすい形で成書としたものである。収録全種について、それぞれ明らかになっている生活史を図示し対面頁に簡潔な解説を添え、見開きで読み取れるように構成。全巻の巻末に、1～3巻共通の学名総索引、和名索引を付す。

第1巻 緑色藻類 (185種) 448頁・定価8400円(本体8000円)

第2巻 褐藻・紅藻類 (171種) 424頁・定価8400円(本体8000円)

第3巻 単細胞性・鞭毛藻類 (146種) 400頁・定価7350円(本体7000円)

藻類多様性の生物学

千原光雄 編著 B5判・400頁・定価9450円(本体9000円)

藻類の複雑な多様性・異質性は藻学およびその周辺領域の多くの学問による長い年月の成果に裏付けられたものであり、その全貌を理解することは容易なことではない。本書は系統だった藻類の教科書の必要性を痛感していた編者が、それぞれの藻群を得意とする専門家の参加を得て、膨大な知識の蓄積を整理しつつ編んだもので、藻類を理解するための好適の書である。

小林弘珪藻図鑑

H.Kobayasi's Atlas of Japanese Diatoms based on electron microscopy 小林 弘・出井雅彦・

真山茂樹・南雲 保・長田敬五 著 B5判・596頁・定価35700円(本体34000円)

本書は、珪藻の分類学の成書として長く刊行が待たれていた待望の書であり、斯界の第一人者、故小林弘博士の名を冠するものである。プレートとその解説をはじめ、特殊な用語が多く使われる珪藻の殻構造の解説を電顕写真や線面を添えて分かりやすく示す。分類体系には最新の研究成果を盛り込む。用語の英語、日本語、ラテン語の一覧表や、学名と和名の対照表などを付し読者の便宜を図った。

下記の出版物をご希望の方に頒布いたしますので、学会事務局（庶務）までお申し込み下さい（価格は送料を含む）。

1. 「藻類」バックナンバー

各号、会員価格 1,750 円、非会員価格 3,000 円；30 巻 4 号（創立 30 周年記念増大号、1-30 巻索引付き）のみ会員価格 5,000 円、非会員価格 7,000 円；欠号 1-2 巻全号、4 巻 1, 3 号、5 巻 1, 2 号、6-9 巻全号。

2. 「藻類」索引

1-10 巻、会員価格 1,500 円、非会員価格 2,000 円；11-20 巻、会員価格 2,000 円、非会員価格 3,000 円；1-30 巻（創立 30 周年記念）、会員価格 3,000 円、非会員価格 4,000 円。

3. 山田幸男先生追悼号

藻類 25 巻増補、1977、A5 判、xxviii + 418 頁。山田先生の遺影、経歴、業績一覧、追悼及び国内外の藻類学者より寄稿された論文 50 篇（英文 26 篇、和文 24 篇）を掲載。価格 7,000 円。

4. 日米科学セミナー記録

Contributions to the systematics of benthic marine algae of the North Pacific. I. A. Abbott・黒木宗尚共編、1972、B5 判、xiv + 280 頁、6 図版。昭和 46 年 8 月に札幌で行われた北太平洋産海藻に関する日米科学セミナーの記録で、20 篇の研究報告（英文）を掲載。価格 4,000 円。

5. 北海道周辺のコンブ類と最近の増養殖学的研究

1977、B5 判、65 頁。昭和 49 年 9 月に札幌で行われた日本藻類学会主催「コンブに関する講演会」の記録。4 論文と討論の要旨。価格 1,000 円。

6. Proceedings of Algae 2002

藻類 52 巻特別号、2004、A4 変形判、253 頁。平成 14 年 7 月につくば市で開催された第 26 回日本藻類学会大会・日本藻類学会 50 周年記念行事・第 3 回アジア太平洋藻類学フォーラム合同会議（Algae 2002）のプロシーディング集。43 篇の論文・レビューを掲載。価格 3,500 円（送料込み）。

藻類

第 58 巻第 2 号

2010 年 7 月 5 日印刷

2010 年 7 月 10 日発行

© 2010 Japanese Society of Phycology

日 本 藻 類 学 会

禁 転 載
不 許 複 製

編集兼発行者

寺田竜太

〒 890-0056 鹿児島市下荒田 4 丁目 50-20

鹿児島大学水産学部水産学科

Tel 099-286-4131

Fax 099-286-4133

E-mail terada@fish.kagoshima-u.ac.jp

印刷所

株式会社イセブ

〒 305-0005 つくば市天久保 2-11-20

Tel 029-851-2515

Fax 029-852-8501

発行所

日本藻類学会

〒 060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目

北海道大学大学院理学研究院自然科学部門

Tel 011-706-2745

Fax 011-706-4851

藻類

The Japanese Journal of Phycology (Sôru)

第58巻 第2号 2010年7月10日

目次

「藻類」の著作権について (広告)

会員の電子メールアドレス登録とそのアドレスによる会員への連絡について

野中圭介・與那覇健次：沖縄島泡瀬産リュウキュウアマモ <i>Cymodocea serrulata</i> の開花過程	123
吉田忠生・吉永一男：日本産海藻目録 (2010年改訂版)	69
藻類学最前線	
仲田崇志：トゲと群体とクロレラの分類	129
民俗藻類学の旅	
濱田 仁・木村光子・村岡大祐：御竈神社の藻塩焼神事とアカモク	133
有賀祐勝：第20回国際海藻シンポジウム (XX-ISS)	138
洲澤多美枝・洲澤 譲・中島 淳・竹 盛窪・熊野 茂：鹿児島県与論島初記録のシマチスジノリ	
<i>Thorea gaudichaudii</i> C. Agardh	141
日本藻類学会第34回大会開催記・参加記	
宮村新一：大会をふりかえって	144
安富友貴：藻類学ワークショップ I 「藻類 30 億年の自然史」に参加して	146
松本拓也：藻類学ワークショップ II 「藻類色素の HPLC 分析入門」参加記	147
芝野郁美：日本藻類学会第34回大会エクスカージョンに参加して	148
英文誌 (Phycological Research) 57 巻 3・4 号掲載論文和文要旨	149
学会録事	154
会員異動	159
学会シンポジウム情報	160
投稿案内	163
会則 他	165
[藻の見遊山] 湯原 徹：ミュージアムパーク茨城県自然博物館企画展	
「そうだ！海だ！海藻だ！—いのちをつなぐ海の森—」	161
[藻の見遊山] 宮田昌彦：千葉県立中央博物館企画展	
海藻, 35 億年の旅人 - それは, 生命 (いのち) をつたえるものがたり -	162
コラム [遊藻子] 寺田竜太：地域住民が主体となった藻場・干潟保全の取り組み	161